

---

# 赤眼のシュナ

鬼灯

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

赤眼のシュナ

### 【Nコード】

N8528V

### 【作者名】

鬼灯

### 【あらすじ】

幼い頃に孤児として拾われたシュナ。しかし本人は至って悲観することなく（図太いぐらいに）逞しく生きている。これはそんな彼女のおてんばな日々の記録である。

## 第1話 どんな綺麗事言ったって結局お金が大事

シユナたちが住む街ラヴィスは王都リーディアを始め、いくつかの街へと続く交通の分岐点となっている。そのため商人や旅人が行き交い、観光客目当ての出店が軒を連ねている。朝、昼、夕方に開かれる市場は活気そのものだ。

しかし昔からこのような様相をしていた訳ではない。むしろ10年前までは掏摸<sup>すり</sup>、強奪、人攫いなどなど例を挙げれば切りがなく、犯罪何でもござれな治安もへったくれも無い状態だった。わざわざ遠回りをしてラヴィスを避けるのが当たり前だったほどである。

これらを引き起こしたのは前領主の悪政だった。今までの倍の税を課し、統治もせず、ただ私財を肥やすのみ。ラヴィスの治安が悪化するのにさして時間はかからなかった。

更に言えば時期も悪かった。この領主がやって来たのが初秋で、本来なら極冬に向けて食糧を蓄え始めなければならない。それがほとんど行えなかったのだ。

その結果、冬の餓死者が多発。当たり前と言えば当たり前前の結果である。

そんな彼らが生きるために出した苦肉の策の一つ。それが子供を捨てることだった。

寒さが一層厳しくなってきた冬の中頃。町外れの小さな教会の神父であるカウエルが吹雪によってガタガタと音が鳴る窓をふと見た時だった。門の所に何か小さな影が見えるのだ。何かに導かれるように外に出たカウエルはそれを見て驚愕した。驚くのも無理はない。彼が見た影、それはまともな防寒着も着ていない小さな子供だったのだから。子供にその意志があったとは思えないが立派な自殺行為である。しかも一人ではない。窓から見えない教会の塀の前には複数の子供がうずくまっていた。カウエルは老骨に鞭を打ち、火事場の馬鹿力ならぬ冬場の馬鹿力でその子供たちを全員運び込んだ。そ

んなカウエルにシスターのセレンも驚き、どういうことかと問いた  
だしたい気はしたが、そんなことを言っている場合では無いと分か  
ると急いで介抱にあたった。しかしこの時期の寒さに子供が耐えら  
れるはずもなく、そのほとんどが凍死してしまった。何とか一命を  
取り留めた者もやがて衰弱し死んでいく中で、唯一生き残ったのが  
シユナであつた。三日三晩高熱に苦しんだものの外傷は軽い凍傷の  
みで熱が下がればなんともけろりとしたものだった。この時からす  
でに将来の姿が垣間見えているのだが、一人だけでも救えたことに  
ほっとしているカウエルとセレンが気付くわけもなかった。

極冬が終わってしばらくすると領主は王都からやって来た使節団  
に検挙された。ここまで派手にやれば捕まって当然である。この領  
主、王都の貴族に賄賂を流してもいたために、その貴族ごとお縄に  
なったという補足がつくのだが、それは置いておくとして。

問題は治安であつた。犯罪ホイホイなこの治安が領主が変わつた  
だけで簡単に直るほど世の中甘くない。結局犯罪が少なくなつて活  
気が戻るのに10年という月日がかかった。おかげで教会はその間  
にシユナを含む12人の子供たちを抱え込むことになった。そして  
ここでも問題が発生していた。

「…金が足りない……」

家計簿をつけながらシユナは机に突つ伏した。

シユナたちが住むマーレ教会はウィンダルではそこそこに布教さ  
れているルリアナ教の教会である。ルリアナ教は主神オーデルの娘  
の聖女ルリアナを信仰している。その容姿も相まって現在ウィンダ  
ルで広まりつつある、わりと新しい宗教だ。しかしあくまでも広  
まりつつあるだけで、寄付金がたまりとあるわけではない。マー  
レ教会の経済力だけで子供12人＋カウエルとセレンも入れて計1  
4人の生活費を支えるには厳しいものがあつた。しかも最近の子供

たちの成長が著しい。がつがつと勢い良く食べる子供たちを横目で見つ、シュナはいよいよまずいと冷や汗を流した。今までもかなりの節約をしてやっとだったというのに。

「頭が痛い……」

シュナは自分の髪をかきむしった。こんなことなら奮発してお菓子なんて買うんじゃないかった。後悔先に立たずとはまさにこのことである。

「ふっ、ここまで来るといつそ笑えてくるわ……」

ウフフと笑っているが目は遠い。端から見れば完全にいつちゃった人である。

「シュナお姉ちゃん」

どこか危ない雰囲気醸し出していたシュナにお声がかかった。パタパタと駆けて来たのはマーレ教会最期の良心（とセレンが思っている）ミアと鼻にそばかすのあるスーザン、そして末っ子の口ンだった。

「お客さんが来てるの」

「お客さん？」

「懺悔したいんだって」

「しかも今すぐ」

「今すぐ懺悔たって、カウエル神父もセレンさんもないしなあ」  
普段あまり訪れる人がいないために大丈夫だろうと思っていたのが徒になったようだ。

「少し待って貰うのは？または後日とか」

「私たちも聞いたの」

「でも、今じゃないとダメって」

「時間がないんだって」

3人がどうしようと思った顔で問ってくる。

「……やるしかないか」

懺悔を聞いてやらないと帰ってくれそうなさそうだし。適当に話聞いて適当に相槌打てば満足して帰るだろう。

セレンあたりが聞いたら喝が飛んできそうなことを思いながらシユナは重い腰を上げたのだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8528v/>

---

赤眼のシュナ

2011年11月17日03時05分発行